

### 【III. 貴健康保険組合の組合員への保健指導、意識啓発についてお尋ねします】

問9 保健指導の実施方法についてお教えください。(複数回答可)

#### 被保険者について

これまで ⇒ 1 健保自前 2 事業主 3 外部委託（保健指導機関等） 4 健保連共同設置保健師 5 未実施

2008年度以降 ⇒ 1 健保自前 2 事業主 3 外部委託（保健指導機関等） 4 健保連共同設置保健師 5 未定

#### 被扶養者について

これまで ⇒ 1 健保自前 2 事業主 3 外部委託（保健指導機関等） 4 健保連共同設置保健師 5 未実施

2008年度以降 ⇒ 1 健保自前 2 事業主 3 外部委託（保健指導機関等） 4 健保連共同設置保健師 5 未定

問10 特定健診・特定保健指導への組合員の参加を促進する上で、健康意識を高める働きかけは重要であり、種々の意識啓発・動機づけのツールが研究開発されていますが、次のA, B, C, Dのそれぞれ4つのツールについて、①組合員への意識啓発ツールとして意味があるか（活用したいと思われるか）、②活用するとしたらどのような対象者が想定されるか（有効と思われるか）についてお答えください。なお、A, B, C, Dの4つのツールについては、同封したツールを参考としてご覧ください。

#### A 腹囲を自分で測るツール（メジャー）

① 組合員への意識啓発ツールとして意味があるか → 有 無

② 活用するとしたらどのような対象者が想定されるか（複数回答可）

1 男性 2 女性 3 壮年層(40・50代) 4 若年層(20・30代) 5 すべての被保険者・被扶養者

6 その他 ( )

#### B 味噌汁などの塩分濃度を自分で測るツール（スプーン）

① 組合員への意識啓発ツールとして意味があるか → 有 無

② 活用するとしたらどのような対象者が想定されるか（複数回答可）

1 男性 2 女性 3 壮年層(40・50代) 4 若年層(20・30代) 5 すべての被保険者・被扶養者

6 その他 ( )

#### C 日々の体重や食事などを自分で記録するツール（健康手帳）

① 組合員への意識啓発ツールとして意味があるか → 有 無

② 活用するとしたらどのような対象者が想定されるか（複数回答可）

1 男性 2 女性 3 壮年層(40・50代) 4 若年層(20・30代) 5 すべての被保険者・被扶養者

6 その他 ( )

#### D 生活習慣病や予防法をパソコンなどで自分で学べるツール（健康e-learning）

① 組合員への意識啓発ツールとして意味があるか → 有 無

② 活用するとしたらどのような対象者が想定されるか（複数回答可）

1 男性 2 女性 3 壮年層(40・50代) 4 若年層(20・30代) 5 すべての被保険者・被扶養者

6 その他 ( )

問11 今後、研究開発すべき意識啓発・動機づけツールがありましたら、ご自由にご意見・ご要望等をご記入ください。

【IV. 最後に「特定健診・特定保健指導」について、ご意見・ご要望等をご自由にご記入ください】

以上で終わりです。ご協力有難うございました。

貴健康保険組合についてご記入ください。調査結果がまとまり次第、お送りさせていただきます。

貴健康保険組合の名称		
ご住所（本部）		
お電話番号／E-mail	お電話番号	／E-mail
ご担当者様のお名前		役職：

特定健診・特定保健指導に関する保険者アンケート

調査票（国民健康保険用）

## 【I. 貴国民健康保険の概要についてお尋ねします】

問1 貴国民健康保険の被保険者数についてご記入下さい。(平成18年4月1日時点)

被保険者( )人

問2 貴国民健康保険の職員数および保健師等専門職、システム担当者の有無についてご記入下さい。

職員数( )人 → うち、専任( )人 兼任( )人

保健師等専門職の有無 → 無 有 (⇒ 1 国保所属 2 衛生所管部課の専門職に協力が得られる)

情報システム担当者の有無 → 無 有

問3 貴国民健康保険の健診(人間ドック・主婦健診、自治体・JA・商工会議所等健診を含む)の受診者数をお教えください。(把握している範囲でご回答下さい)

被保険者	人数	受診者数
30歳代	名	名
40歳代	名	名
50歳代	名	名
60歳代	名	名
70歳代	名	名

## 【II. 貴国民健康保険の健診データの収集・管理についてお尋ねします】

問4 貴国民健康保険では健診データの収集・管理状況を把握されていますか。(複数回答可)

1 未把握 2 紙媒体保管 3 パンチ入力後電子媒体管理 4 電子媒体にて収集・管理

問5 現在、電子的にデータを管理・処理している国民健康保険にお伺いします。(○は1つ)

社会保険システムについてお教えください。

1 外部委託 : (ベンダー名: \_\_\_\_\_) 2 自国保開発

データベースシステムの種別

1 大型計算機 2 UNIX系システム 3 Windows系システム 4 その他( ) 5 不明

データ処理(入力や検索)する端末の種別

1 大型計算機用端末 2 UNIX系システム 3 Windows系システム 4 その他( ) 5 不明

システム利用形態(複数回答可) :

1 通信で接続された端末だけ設置されており、データベースシステム本体はベンダー側にある

2 データベースシステム本体が自国保にある

3 複数国保で共用している

- 4 単独で使用している  
5 衛生部課のシステムを相互利用している

問6 高齢者の医療の確保に関する法律に基づき、2008年度から保険者による実施及び結果の管理が義務づけられている特定健診のデータを含む健診データの管理する対象範囲（予定）についてお教えください。（○は1つ）

- 1 特定健診のみ    2 特定健診+人間ドック    3 特定健診+がん検診  
4 その他（ ）                                      5 未定

問7 2008年度からの特定健診において、健診機関から保険者へのデータ提出は原則として標準的な電子データ様式で行われることになっています。これについてどの程度ご存知ですか。（○は1つ）

- 1 まったく／ほとんど知らなかった  
2 漠然と知っている  
3 XML形式<sup>注1)</sup>で検討が進んでいることを知っている  
4 HL7形式<sup>注2)</sup>で検討が進んでいることを知っている

※ XML、HL7形式等については、ぜひ当研究班の専用ホームページ  
<http://tokuteikenshin.jp> を御覧ください。

註1) XML形式(Extensible Markup Language)とは、文字列（「タグ」という）で各データ項目を表して、データ構造をわかりやすく示せる形式で、インターネットのホームページで使われるHTML形式と同じ種類に属します。

註2) HL7(Health Level 7)形式とは、患者情報、検査オーダー等のさまざまな医療情報を異なる会社製のシステム間でやりとりするための国際的な通信規約です。ここでいうHL7形式とは、このHL7に属する診療文書の国際標準であるCDA R2(Clinical Document Architecture Release 2)を想定しています。

問8 高齢者の医療の確保に関する法律に基づき、保険者に義務づけられている特定健診・保健指導の準備のための現状把握（健診受診状況、健診結果、生活習慣等）及び特定健康診査等実施計画書（高齢者の医療の確保に関する法律第十九条）を作成・提出するまでの必要データの収集方法（予定）をお教えください。（複数回答可）

- 1 自国保で実施    2 国保連・中央会の情報（現状把握の手法、事業計画作成の手引書の提供等）を活用し実施    3 外部委託して実施    4 方法は未定

### 【III. 貴国民健康保険の被保険者への保健指導、意識啓発についてお尋ねします】

問9 保健指導の実施方法についてお教えください。（複数回答可）

- |          |   |  |
|----------|---|--|
| これまで     | ⇒ | 1 国保自前    2 衛生部課からの協力    3 外部委託（保健指導機関等） |
|          |   | 4 国保連共同設置保健師    5 未実施                    |
| 2008年度以降 | ⇒ | 1 国保自前    2 衛生部課からの協力    3 外部委託（保健指導機関等） |
|          |   | 4 国保連共同設置保健師    5 未定                     |

問10 特定健診・特定保健指導への被保険者の参加を促進する上で、健康意識を高める働きかけは重要であり、種々の意識啓発・動機づけのツールが研究開発されていますが、次のA, B, C, Dのそれぞれ4つのツールについて、①被保険者への意識啓発ツールとして意味があるか（活用

したいと思われるか)、②活用するとしたらどのような対象者が想定されるか(有効と思われるか)についてお答えください。なお、A、B、C、Dの4つのツールについては、同封したツールを参考としてご覧ください。

A 腹囲を自分で測るツール(メジャー)

① 被保険者への意識啓発ツールとして意味があるか → 有 無					
② 活用するとしたらどのような対象者が想定されるか(複数回答可)					
1 男性	2 女性	3 壮年層(40代以上)	4 若年層(20・30代)	5 すべての被保険者	
6 その他( )					

B 味噌汁などの塩分濃度を自分で測るツール(スプーン)

① 被保険者への意識啓発ツールとして意味があるか → 有 無					
② 活用するとしたらどのような対象者が想定されるか(複数回答可)					
1 男性	2 女性	3 壮年層(40代以上)	4 若年層(20・30代)	5 すべての被保険者	
6 その他( )					

C 日々の体重や食事などを自分で記録するツール(健康手帳)

① 被保険者への意識啓発ツールとして意味があるか → 有 無					
② 活用するとしたらどのような対象者が想定されるか(複数回答可)					
1 男性	2 女性	3 壮年層(40代以上)	4 若年層(20・30代)	5 すべての被保険者	
6 その他( )					

D 生活習慣病や予防法をパソコンなどで自分で学べるツール(健康e-learning)

① 被保険者への意識啓発ツールとして意味があるか → 有 無					
② 活用するとしたらどのような対象者が想定されるか(複数回答可)					
1 男性	2 女性	3 壮年層(40代以上)	4 若年層(20・30代)	5 すべての被保険者	
6 その他( )					

問11 今後、研究開発すべき意識啓発・動機づけツールがありましたら、ご自由にご意見・ご要望等をご記入ください。

【IV. 最後に「特定健診・特定保健指導」について、ご意見・ご要望等をご自由にご記入ください】

以上で終わりです。ご協力有難うございました。

貴国民健康保険についてご記入ください。調査結果がまとまり次第、お送りさせていただきま

す。

貴国民健康保険の名称		
ご住所		
お電話番号／E-mail	お電話番号	／E-mail
ご担当者様のお名前		役職：

研究成果の刊行に関する一覧表

**書籍**

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の 編集者名	書籍名	出版社 名	出版地	出版年	ページ
東京大学大学院医学系研究科 循環器内科/健康医学創造講座/健診情報学講座			疾病予防サービスに対する勧告(仮訳)	中央法規出版	東京	2007年	
古井祐司(共著)	生活習慣病予防・管理のためのコンソーシアム		「ヘルスサポートの方法と実践」	東京大学出版会	東京	2007年	p. 215-219

**雑誌**

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
大江和彦	健診・保健指導プログラムにおける健診データ流通の標準様式	第 26 回医療情報学連合大会論文集		p. 138	2006 年
大江和彦ほか	健康管理を支援する情報技術	第 26 回医療情報学連合大会論文集		p. 150	2006 年
古井祐司	医療保険者の保健事業としての一次予防プログラムの実践:HCC プロジェクト	第 26 回医療情報学連合大会論文集		p. 70-71	2006 年
Hoshimoto, Nittami, Konishi, Ohbayashi, Murakami, Kubodera, Watanabe, Yamaguchi, Tanaka, Miyo, Yamamoto, Ohe	Nationwide Standard Electronic Health-Document-Exchange based on HL7CDA-Rel. 2 in the New National Health-Checkup-Program for Preventing Metabolic Syndrome in Japan	MEDINFO 2007			投稿中
古井祐司(共著)	医療保険者による健診・保健指導の取り組み～先行事例より	平成 18 年度地域保健総合推進事業発表会抄録集		p. 169-170	2007 年

研究成果の刊行物・別刷

別添のとおり